

Title	長堀祐造教授略歴・主要著訳等一覧
Sub Title	Biographical resume and list of publications of Professor Yuzo Nagahori
Author	
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2021
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. 中国研究 (The Keio Hiyoshi review of Chinese studies). No.14 (2021.) ,p.7- 28
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	長堀祐造教授退休記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA12310306-20210331-0007

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

長堀祐造教授 略歴・主要著訳等一覽

略歴

- 一九七四年三月 埼玉県立浦和高等学校卒業。
- 一九七四年四月 東京大学教養学部文科Ⅲ類入学。
- 一九七六年四月 東京大学文学部中国語中国文学科進学。
- 一九八〇年三月 東京大学文学部中国語中国文学科卒業。
- 一九八〇年四月 成蹊高等学校非常勤講師。→一九八二年三月。
- 一九八一年九月 京北高等学校非常勤講師。→一九八二年三月。
- 一九八二年四月 城北埼玉高等学校教諭。→一九八五年三月。
- 一九八五年四月 早稲田大学大学院文学研究科博士前期(修士)課程、中文専攻入学。
- 一九八七年三月 同右課程修了。文学修士。
- 一九八七年四月 同右博士後期課程入学。
- 一九八八年三月 同右課程中退。

一九八八年四月 桜美林大学文学部中文科専任講師。

一九九二年四月 同右 助教授。 一九九三年三月。

一九九三年四月 慶應義塾大学経済学部助教授（中国語担当）。

一九九八年四月 同右 教授。 二〇二一年三月。

大学非常勤講師出講歴等

一九八八年四月 文京女子短期大学（中国語担当） 一九九〇年三月。

一九八九年四月 早稲田大学教育学部（中国語担当） 一九九〇月三月。

一九九一年四月 早稲田大学第一文学部（中国語担当） 一九九三年三月。

一九九二年四月 和光大学人文学部（中国現代文学担当） 一九九三年三月。

一九九四年四月 早稲田大学第一文学部（中国語担当） 二〇〇〇年三月。

一九九四年十月 東京大学教養学部（中国語担当） 一九九六年三月。

一九九七年四月 東京大学文学部（中国文学特殊講義担当） 一九九九年三月。

二〇〇〇年四月 北京大学中文系訪問專家。 二〇〇一年三月。

二〇〇一年四月 早稲田大学商学部（中国語担当） 二〇〇二年三月。

二〇〇一年四月 慶應義塾大学文学部中国文学専攻（兼任、中国文学特殊担当） 二〇〇四年三月。

二〇〇二年四月 埼玉大学教養学部（中国語、中国文学担当） 二〇〇五年三月。

二〇〇六年四月 東京大学文学部・大学院人文社会学系研究科（中国文学特殊講義担当） 同年九月。

二〇〇七年四月 東京大学文学部・大学院人文社会学系研究科（中国文学特殊講義担当） 同年九月。

二〇一〇年四月 早稲田大学商学学術院商学部（中国語担当） 現在に到る（二〇一一年度は除く）。

二〇一六年四月 早稲田大学文学学術院文学研究科（中国文学研究一・二担当）。 二〇一八年三月。

二〇一六年四月 慶應義塾大学文学部中国文学専攻（兼任、中国文学特殊担当）～二〇一八年三月。

学位

一九八七年三月 文学修士（早稲田大学大学院）

修士論文「魯迅の文学観―後期魯迅とトロツキー―」

二〇一二年七月 博士（文学）（慶應義塾大学大学院）。

博士論文（著書）『魯迅とトロツキー―中国における『文学と革命』』（平凡社、二〇一一年九月刊）

学会委員等

東方学会 評議委員 二〇〇九年～二〇一一年。

学術委員 二〇一一年～現在に到る。

『東方學』編集委員 二〇一一年～二〇一五年。

国際東方学者会議運営委員 二〇一五年～現在に到る。

国際魯迅研究会

理事 二〇一一年～二〇一四年。

慶應義塾中国文学会

理事 二〇一六年～現在に到る。

学会主催等

東亜魯迅学術会議

陳独秀国際シンポジウム

執行委員会委員 一九九九年十二月 東京大学本郷。

開催実行委員会事務局長 二〇〇四年九月 東大駒場 慶應義塾大学日吉。

東京―ソウル現代中国文学対話会

開催実行委員会副委員長 二〇〇六年七月 東大本郷。

第二回東京―ソウル現代中国文学対話会

日本側委員会委員 ソウル大学校人文大学中文科・韓中文学比較研究会主管
ソウル―東京 中国現代文学研究対話会主催、ソウル大学校韓国学術振興財
団後援 二〇〇八年七月 ソウル大学。

第八回東亜中文文学国際学術研討会

実行委員会副委員長 二〇一〇年十一月 慶應義塾大学日吉来往舎。

日吉電影祭2013 莫言原作『紅いコリヤン』上演とシンポジウム

主催責任者 二〇一三年十二月 慶應義塾大学日吉。

科研費によるシンポジウム「日韓における中国近現代文学受容の比較研究」2014 東京―ソウル 中国現代文学研究
対話会

科研費による『周作人国際シンポジウム』

実行委員会副委員長 二〇一四年十二月 早稲田大学商学学術院。

2018東京―首爾（ソウル）中国現代文学研究対話会

実行委員会副委員長 二〇一八年七月 早稲田大学商学学術院。

実行委員会委員 二〇一八年十二月 東京大学駒場、等。

受賞

一九八九年一〇月 日本中国学会賞

『日本中国学会報』第四〇集（一九八八年一〇月刊）掲載論文「魯迅革命文学論に於けるトロツキー文藝理論」により。

一九九九年一〇月 紀念中華人民共和國成立五十周年中国革命史中青年学術獎（中華人民共和國成立五十周年中国革命史
中青年学術賞海外優秀論文賞）。（中国社会科学院近代史研究所・中共広東省委党史研究室主催）。『魯迅研究月刊』一九
九六年第三期掲載、長堀祐造著・王土花訳「試論魯迅托洛次基觀的転変―魯迅与瞿秋白―」（初出は「魯迅における
トロツキー觀の転回試論―魯迅と瞿秋白―」『中国文学研究』第十三期（早稲田大学中国文学会））に対して。

二〇一一年一二月 義塾賞（慶應義塾大学）

『魯迅とトロツキー―中国における『文学と革命』』（平凡社 二〇一一年九月）に対して。

著書

『魯迅とトロツキー―中国における『文学と革命』』平凡社 二〇一一年九月。

『世界史リブレット 人 陳独秀』山川出版社 二〇一五年十月。

訳著

莫言著『変』明石書店 二〇一三年三月。

共訳著

李徳純著『戦後日本文学管窺―中国的視点―』明治書院 一九八六年五月。

莫言著『中国の村から―莫言短編集―』（藤井省三との共訳）JICC出版局 一九九一年三月。

Christopher New 著『上海』（藤井省三監訳）平凡社 一九九一年三月。

『笑』の共和国―中国ユーモア文学傑作選―（藤井省三編）白水社 一九九二年四月。

Christopher New 著『香港』（藤井省三監訳）平凡社 一九九三年四月。

毛毛著『わが父・鄧小平』共訳著（訳者代表・訳者あとがきを付す）徳間書店 一九九四年二月。

鄭超麟著『初期中国共産党群像―トロツキスト鄭超麟回憶録』全二卷（訳者解説を付す。三好伸清・緒形康との共訳）平凡社東洋文庫711/712 二〇〇三年一月―二月。

陳独秀著『陳独秀文集』全三卷（コディネーター 編訳者代表）

第一卷『陳独秀文集 初期思想・言語文化卷』（陳独秀小伝）を付す。小川利康・小野寺史郎・竹元規人との共訳）平凡社東洋文庫872 二〇一六年六月。

第三卷『陳独秀文集 政治論集2』（江田憲治との共訳）平凡社東洋文庫881 二〇一七年四月。

外国語に翻訳された著書

『魯迅與托洛茨基——《文學與革命》在中國』（王俊文訳）台湾人間出版社 二〇一五年三月。

（『魯迅とトロツキー——中国における『文学と革命』』平凡社 二〇一一年九月、の翻訳）。

主要業績一覧（論文、口頭発表、講演、翻訳、その他等。*は注）

一九八二年二月（論文等）「中国の叙事詩」亀井トム主編『エポス』創刊号、JCA出版社。

一九八六年三月（その他）「村上春樹と中国」『早稲田大学中国文学会集報』第十一輯。

五月（共訳著）李徳純著『戦後日本文学管窺——中国的視点——』明治書院。

十二月（口頭発表）「魯迅与托羅茨基」早稲田大学中国文学会秋季大会。

一九八七年一月（修士論文）「魯迅の文学観——後期魯迅とトロツキー——」早稲田大学大学院文学研究科に提出。

九月（論文）「魯迅『革命人』の成立——魯迅におけるトロツキー文芸理論の受容その一——」『猫頭鷹』第六号

（「新青年」読書会）。*中国語訳は王士花訳「魯迅・革命人」的提出——魯迅接受托洛茨基文芸理論之一」（『魯迅研究月刊』二〇〇二年第十期）。

十二月（論文）「魯迅におけるトロツキー観の転回試論——魯迅と瞿秋白——」『中国文学研究』第十三期（早稲田

大学中国文学会）。*中国語翻訳は、王士花訳「試論魯迅托洛茨基觀的転変——魯迅与瞿秋白——」（『魯迅研究月刊』一九九六年第三期、その後、唐宝林主編『昨天的革命2019-1949』（香港新苗出版社、一九九九年十月）に収録）。

一九八八年九月（その他）「渋谷黎子とローザ・ルクセンブルク」サークル『行動する「考え人」通信』No.15。

（その他）「中井氏の二三の感想を読んで」『中国文芸研究会会報』第83号。

十月（論文）「魯迅革命文学論に於けるトロツキー文藝理論」『日本中国学会報』第四十集（日本中国学会）。

- *中国語訳は「魯迅革命文学論中的托羅茨基文芸理論」として、王富仁（汕頭大学新国文学研究中心）主編『東亜文化与中文文学 東亜現代中文文学国文学報第四期 汕頭大学号（二〇〇八）（二〇一〇年五月）に収録、その改訂版「魯迅革命文学論中的托羅茨基的文芸理論」は『現代中文学刊』双月刊二〇一一年第三期に掲載。
- 一九八九年七月
 〔論文〕「魯迅と円谷弘」『中国図書 第一巻第七号（内山書店）。
- 十月
 〔翻訳〕劉再復著「変貌する知識人像」『ユリイカ』第二二巻十三号（青土社）。
- 十一月
 〔講演〕「渋谷定輔「野良に叫ぶ」の文学的意義」埼玉県富士見市市民大学セミナー。
 〔その他〕「野良に叫ぶ」とトロツキーそしてローザ」埼玉新聞十一月二八日付。
- 一九九〇年一月
 〔論文等〕「円谷教授宛の魯迅署名本見つかる」『中国図書』第二巻第七号（内山書店）。
- 三月
 〔論文〕「魯迅と円谷弘補論」『桜美林大学中国文学論叢』第十五号（桜美林大学中国文学科）。
 〔論文等〕「胡愈之についての二三のこと」『季刊燎原』No.35（燎原書店）。
- 六月
 〔その他〕「希望は未来に属する―天安門事件一周年に思う―」『新日本文学通信版』六月号。
- 十月
 〔書評〕加々美光行著『現代中国の黎明』『新日本文学』同年秋季号。
- 一九九一年二月
 〔講演〕「魯迅・円谷弘・岩村一夫 一冊の本をめぐる」桜美林大学中国学会。
- 三月
 〔論文〕「魯迅」「堅琴」前記」の材源及びその他」『桜美林大学中国文学論叢』第十六号。
 〔共訳著〕莫言著『中国の村から―莫言短編集―』（藤井省三との共訳）JICC出版局。
 〔共訳著〕Christopher New 著『上海』（藤井省三監訳）平凡社。
- 四月
 〔その他〕「古書との出会いなど―魯迅署名本のことなど―」『桜美林大学三到図書館ニュース』No.35。
 〔共訳著〕『笑いの共和国―中国ユーモア文学傑作選―』（藤井省三編）白水社 沈従文「自殺の話」、葉文福「將軍、それはなりません」、柏楊「秘密」の三編を担当。
- 七月
 〔座談会〕「莫言と現代中国農民像 座談会（愛沢革・薄井清・加々美光行・長堀祐造）」『新日本文学』同年夏号。

十一月〔項目執筆・中国現代文学〕『広辞苑』第四版 岩波書店。

一九九二年一月〔書評〕「中国地下文学の現在 書評『紙の上の月』」『海燕』一月号（福武書店）。

三月〔書評〕瀬戸宏著『中国の同時代演劇』『早稲田大学中国文学会集報』第十七輯。

〔論文〕「韋素園・李霽野訳トロツキー『文学与革命』出版までとその諸問題 付李霽野著『文学与革命』後記」『桜美林大学中国文学論叢』第十七号。

〔編著〕「桜美林大学三到図書館蔵『京報副刊』目次目録 付「解題」」『桜美林大学中国文学論叢』第十七号。

五月〔その他〕「中国社会主義の行方―莫言近作を読んだ感想など―」『新日本文学通信版』五月号。

九月〔その他〕「上海内山書店と魯迅をめぐる風景」『ビプロス』九月号（国立国会図書館）。*引用文中に、誤植あり。

〔論文〕「魯迅とトロツキー その一断面―樊仲雲訳『文学と革命』を中心に―」『魯迅研究の現在』（同論集編集委員会編）汲古書院。

一九九三年二月〔その他〕「莫言 魔幻現実主義が描く中国社会 現代文学の作家と作品」『中国語』第三九七号（内山書店）

四月〔共訳著〕Christopher New 著『香港』（藤井省三監訳）平凡社。

十二月〔その他〕「巴金「薔薇の香り」を読む」『你好』十一・十二月合併号（NHK学園）。

一九九四年一月〔書評〕鄭義著・藤井省三監訳『中国の地の底で』『海燕』一月号。

二月〔共訳著〕毛毛著『わが父・鄧小平』（訳者代表・訳者あとがきを付す）徳間書店。

五月〔書評〕ドムチヨクドノンロプ著・森久男訳『徳王自伝』『すばる』五月号（集英社）。

七月〔その他〕「魯迅―日本を見る鏡、世界を覗く窓―」『三色旗』七月号（慶應義塾大学通信教育部）。

〔講演〕「魯迅とトロツキー」第八回トロツキー研究会（トロツキー研究所主催、中野区勤労福祉会館、

- 七月十六日)。
- 七月
 「講演」『鲁迅の革命文学論とトロツキー』早慶中国学会(早稲田大学、七月二日)。
 「その他」『鲁迅とトロツキー』『トロツキー研究所ニュース・レター』No.9。
- 九月
 「劇評」『宮本研作、木村光一演出「阿Q外伝」を見て』『幕』第三二号(話劇人社)。
- 十月
 「翻訳」鄭超麟著「胡風の長文「鲁迅先生」を読んで思う」(訳者解説を付す)『トロツキー研究』第十三号(トロツキー研究所)。
- 一九九五年六月
 「論文」『1928～32年における鲁迅のトロツキイ観と革命文学論』『日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション』第十五号。
- 九月
 「項目執筆・胡愈之の項」『中国近代人名辞典』霞山会。
- 十二月
 「翻訳」王凡西著「書評『唐宝林著「中国トロツキスト史」』」『トロツキー研究』第十七号。
 「翻訳」鄭超麟著「書評『中国トロツキスト史』」(訳者解説を付す)『トロツキー研究』第十七号。
 「書評」岡田和裕著「満州安寧飯店」『週刊読書人』第二一一三号。
 「翻訳」王凡西著「楼国华追悼」『トロツキー研究』第十八号。
- 一九九六年三月
 「翻訳」G・ベントン編「王凡西へのインタビュー 唐宝林著『中国トロツキスト史』をめぐって」『トロツキー研究』第十九号。
- 七月
 「講演」『鲁迅と日本及び日本人』慶應義塾大学横浜市民講座 九月二二日 慶應義塾大学日吉キャンパス。
- 九月
 「口頭発表」『関於在日本戦後の鲁迅研究的概要』(中国語) 日韓鲁迅研究シンポジウム 東京大学文学部 十月九日。パネリスト 金時俊(ソウル大学教授)、朴宰雨(韓国外国語大学教授) 司会・藤井省三(東京大学教授)、コメンテーター・丸山昇(桜美林大学教授)、長堀祐造。*このコメント原稿のちに改稿の上、「戦後日本鲁迅研究概略」として曾慶榴・洪小夏主編『中国革命史研究述論』(香港華星出版社、二〇〇〇年七

月)に収録。

〔論文と翻訳〕「その後の陳仲山―中国トロツキー派と魯迅の往復書簡―日本語訳「トロツキー派に答える手紙」及び「トロツキー派分子から魯迅先生に答える手紙」『トロツキー研究』第二〇・二二合併号。
〔口頭発表〕「唐宝林『中国托派史』をめぐる問題」文部省科研費「転形期の中国知識人」研究会 東京大学東洋文化研究所 十一月三十日。

一九九七年三月

〔書評〕川西政明著『我が幻の国』一九九七年三月一日付『図書新聞』第二三三二号。
〔講演〕「中国トロツキスト運動史」トロツキー研究所第十四回研究会 中野勤労福祉会館 一九九七年三月十五日。

六月

〔書評〕格非著・関根謙訳『時間を渡る鳥』『すばる』六月号。

七月

〔書評〕格非著・関根謙訳『時間を渡る鳥』『東方』七月号。

一九九八年六月

〔翻訳〕王凡西著「『中国トロツキスト史』の著者に答える」『トロツキー研究』第二三三号。
〔翻訳〕桂勤著「耳目を一新する文学教育研究 書評・藤井省三著『魯迅「故郷」の読書史』」『東方』六月号。
九月 〔論文等〕「鄭超麟―中国トロツキストの仏ソ留学・獄中体験と外国語」月刊『しにか』十月号 大修館書店。

書店。

〔翻訳〕王凡西著「同志鄭超麟の死を悼む」『週刊かけはし』(JRC L機関誌第一五五二号) 九月二八日付。

十月

〔論文〕「トロツキー派に答える手紙」をめぐる諸問題」『日本中国学会創立50年記念論文集』汲古書院。
〔その他〕「反対派貫いた鄭超麟」東京新聞夕刊 十月十七日付。

〔論文〕「トロツキー派に答える手紙」をめぐる諸問題(続)」『三十年代中国と東西文芸―蘆田孝昭教授退休紀念論文集』(同論集編集委員会編) 東方書店。*のちに中国語訳は奚金芳・伍玲玲主編『陳独秀南京

- 獄中匯編』上下巻（上海人民出版社、二〇一六）に「關於『答托洛斯基派的信』」（後編）として収録。
- 一九九九年一月 「その他」『思想没有国界—答日本東京長堀祐造』（唐宝林との往復書簡）（中国語）『陳独秀研究動態』第十五期。
- 三月 「編訳」『小特集 追悼鄭超麟（一九〇一—一九九八）』『トロツキー研究』第二八号。（翻訳）賈植芳著「忘れ得べからざる先輩—鄭超麟先生」他。
- 「その他」『生涯にわたる左翼反対派・鄭超麟を送る』『中国21』第五卷 愛知大学現代中国学会。*のちに中国語訳が勾艶軍訳・楊棟梁校「送別『終生左翼対立派』鄭超麟』として中国語版『中国21』第三号 中国社会科学出版社 二〇〇五年四月、に掲載された。
- 七月 「その他」『進む日韓の魯迅研究』（韓国語・石坂浩一訳）韓国 慶南道民日報 一九九九年七月十七日付。
- 八月 「翻訳」『王凡西著『鄭超麟著訳目録（初稿）』について』『トロツキー研究』第二九号。
- 十月 「口頭発表」『魯迅与托羅茨基』紀念中華人民共和國成立五十周年中国革命史中青年學術獎頒儀式及學術研討会 中国社会科学院近代史研究所・中共広東省委党史研究室主催 広州市 十月五日。
- 十二月 「口頭発表」『魯迅与托羅茨基』中国語文学会一九九六年第二屆國際學術学会 ソウル高麗大学 十二月六日。
- 二〇〇〇年一月 「その他」『周程氏の講演と論文・陳独秀における「民主」と「科学」へのコメント』『湘南科学史懇話会通信』第五号（一九九九年九月四日、東海大学湘南校舎での第八回懇話会の記録）。
- 三月 「講演」『魯迅とトロツキー及び中国トロツキー派』京都大学人文科学研究所研究会「中国共産主義と日本」二〇〇〇年三月三日。
- 七月 「その他」『一九九九年中国文学概観 中国文学の現況と翻訳・研究99』『文芸年鑑二〇〇〇（平成十二年版）』日本文芸家協会編 新潮社。*本文中、魯迅の許寿裳宛書信とするのは蔡元培宛の誤り。
- 十一月 「講演」『魯迅与托羅茨基以及圍繞「答托洛斯基派的信」的問題』清華大学大学院中文系 二〇〇〇年十

一月二三日。(司会：王中忱教授)。

二〇〇一年三月
〔講演〕「魯迅与托羅茨基以及圍繞「答托洛斯基派的信」的問題」 北京大学中文系 三月二一日。(司会：陳平原教授)。

〔講演〕「魯迅与托羅茨基以及托羅茨基派・毛沢東「文芸講話」与列寧「党的組織与党的文学」的翻譯問題」 香港科技大学大学院中文系 三月三一日。(司会：陳国球教授)。

七月
〔その他〕「毛沢東「文芸講話」の「文学」と「文献」」『梨の花通信』第四〇号 中野重治の会。
八月
〔その他〕「莫言「生命感覺」溢れる文体」『週刊朝日百科 世界の文学』一〇九 朝日新聞社。

二〇〇二年四月
〔翻訳〕陳道同著「陳其昌の死 付解題」中国研究所『中国研究月報』四月号(Nos.80) 第56卷第4号。
〔口頭発表・論文〕「列寧「党的組織与党的文学」的翻譯問題与毛沢東「文芸講話」第一回中国現代文学アジア学者国際学術會議 国立シンガポール大学 四月二一日。

〔口頭発表・論文〕「魯迅的陳独秀觀与陳独秀的魯迅觀」第七回全国陳独秀学術研討会 南京大学 五月二七日―二十九日。*のちに奚金芳主編『陳独秀研究文集・陳独秀与20世紀學術、思想文化』北京中国文史出版社、二〇〇五年八月、に収録。さらに改訂版が林致良・吳孟明・周履鏞編『陳独秀晚年著作選』香港天地出版社、二〇一二年十一月、に附録として収録。

十月
〔編訳〕「インタビュー 中国トロツキストの命運―人民共和国に暮らして―」付解説『中国21』第十四号 愛知大学現代中国学会 *のち、陳良初著『陳独秀与社会主义』陳良初文集 香港馬克思主義研究促進会、二〇一〇年五月、に中国語訳が「中国托派的命運―答長堀祐造先生訪問録」として収録。

十一月
〔講演〕「魯迅の陳独秀觀と陳独秀の魯迅觀」日本陳独秀学会創立記念講演会 東京大学駒場キャンパス 十一月九日。

十二月
〔翻訳〕陳独秀著「トロツキー派国際書記局への手紙」
〔翻訳〕陳独秀著「私の根本的意見」

- 二〇〇三年一月
 「共訳著」鄭超麟著『初期中国共産党群像―トロツキスト鄭超麟回憶録』1（三好伸清・緒形康との共訳）平凡社東洋文庫711。
- 二月
 「共訳著」鄭超麟著『初期中国共産党群像―トロツキスト鄭超麟回憶録』2（三好伸清・緒形康との共訳）平凡社東洋文庫712。
- 「論文」鄭超麟とその時代―歴史の中の中国トロツキー派 付 鄭超麟著訳目録」平凡社東洋文庫『初期中国共産党群像―トロツキスト鄭超麟回憶録』2所収解説論文。
- 三月
 「その他」「家族たちのトロツキズム」『月刊百科』No.85（平凡社）。*のち、平凡社東洋文庫編集部編『東洋文庫ガイドブック2』二〇〇六年五月、に収録。
- 四月
 「講演」『魯迅の「革命性」と「非革命性」』シアターX「魯迅・ブレヒト・林兆華の演劇講座」第2回四月二六日。
- 「その他」『王凡西さんを偲ぶ』『トロツキー研究』第四〇号。
- 六月
 「その他」『悼念王凡西先生』（中国語）『通詢』第三期 香港馬克思主義研究促進会。及び『陳独秀研究動態 簡報』総三三・三四期に収録。
- 七月
 「講演」『初期中国共産党群像』を訳して」名古屋 慶應義塾大学通信教育部講演会 七月四日。
- 「論文」『レーニン「党の組織と党の文学（出版物）」翻訳問題と毛沢東「文芸講話」』『東方学』第一〇六輯。のち、丁楚南訳「列宁」一篇文章在日、中两国的误译及其在中国造成的严重后果」として『陳独秀

与中国』総五一期、二〇〇五年七月、に掲載。

八月〔その他〕「王老写郑老回忆录日文版序文的经过」（中国語）『陳独秀研究動態 簡報』総三七・三八期。

十月〔書評〕山崎朋子著『朝陽門外の虹』「北京の基督」清水安三と二人の妻の物語』『週刊東洋経済』十月二五日号。

十二月〔その他・翻訳〕「精読 賈植芳「懷念丸善書店」」月刊『中国語』（内山書店）二〇〇三年十二月号〜二〇〇四年三月号連載。

二〇〇四年五月〔書評〕尾崎秀実著・米谷匡史編『尾崎秀実時評集』『週刊東洋経済』五月二二日号。

十一月〔書評〕清水美和著『中国「新富人」支配』『週刊東洋経済』十一月十三日号。

二〇〇五年二月〔書評〕ジョイ・A・パルマー著・須藤自由兒訳『環境の思想家たち』上・下 みすず書房。『週刊東洋経済』二月十二日号。

三月〔論文〕「魯迅と陳独秀―魯迅の陳独秀観と陳独秀の魯迅観」『日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション』第三四号。

四月〔書評〕ジルベール・アシユカル著・湯川順夫訳『野蠻の衝突』作品社。『週刊東洋経済』四月二日号。

十月〔書評〕横山宏章著『「反日」と「反中」』集英社新書。『週刊東洋経済』十月十五日号。

十一月〔その他〕「もし魯迅が生きていたら中野は」『梨の花通信』第五一号 中野重治の会。

十二月〔論文〕「永久革命者の悲哀―もし魯迅が生きていたら」論争覚書―上』『中国文学研究』第三二期 早稲田大学中国文学会。

二〇〇六年三月〔論文〕「永久革命者の悲哀―もし魯迅が生きていたら」論争覚書―下』『日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション』第三六号。

六月〔口頭発表・論文〕「魯迅与托洛茨基」ロシア国立サンクトペテルブルグ大学における国際会議 *Issues of Far Eastern Literatures* における発表。六月二七日〜七月一日開催。主催：サンクトペテルブルク大

- 学・武漢大学。論文は *Issues of Far Eastern Literatures* Vol.1 Saint Petersburg Univ. 刊に収録。
- 十月 「翻訳・解題論文付」王凡西著「胡風遺著読後感」『日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション』第二七号。
- 「口頭発表・論文」「從『要是魯迅還活著』論爭來看魯迅與中共以及毛澤東」台湾国立清華大学における第五回東亜学者現代中文文学国際研討会「台湾文学与跨文化流動」にて発表。二〇〇六年一〇月二六日～二八日。(主辨単位 台湾行政院文化建設委員会 承辨単位 台湾清華大学 協辨単位 東亜現代中文文学国際学会)。*のち、邱貴芬・柳書琴主編『台湾文学与跨文化流動—東亜現代中文文学国際学報第三期台湾号』(台湾行政院文化建設委員会出版、二〇〇七年四月)に収録。
- 十二月 「論文」「魯迅・トロツキスト・中上健次」『國文学』十二月号。
- 「書評」「テクストの誘惑あるいは魯迅研究の罫 代田智明著『魯迅を読み解く』東大出版会」。『中国図書』二月号。
- 十二月 「翻訳・解題論文」王凡西著「宋雲彬と許志行を思う」『日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション』第三九号。
- 二〇〇八年三月 「書評」「莫言著・吉田富夫訳『転生夢現』日本経済新聞 三月一六日付。
- 「翻訳・解題論文」王凡西著「魯迅の手紙」から陳其昌その人を語る」『日吉紀要 中国研究』創刊号。
- 七月 「口頭発表」「魯迅と円谷弘一賈植芳先生を偲び、少しばかりウィットフォーゲルにも触れて」日吉中国現代文学研究会第二回 慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎・関根研究室 七月十八日。
- 十月 「口頭発表」「小川利康(早稲田大学教授) 報告「周作人と松枝茂夫——雑誌『近世庶民文化』掲載の佚文をめぐって」について」日本学術振興会協賛 周作人研究報告会「魯迅、周作人と一九二〇年代の日本」弘前学院大学 十月十八日。
- 十一月 「口頭発表・論文」「魯迅と富田事件」一橋大学大学院言語社会研究科プロジェクト「中国現代文学研究

中国際シンポジウム「いま魯迅を読む（魯迅解讀的當代意義）」十一月八日。

十二月

〔口頭発表〕「戦後日本魯迅研究の概略」東京大学東洋文化研究所定例研究会 尾崎文昭教授発表「戦後日本の魯迅研究と丸尾魯迅論」についてのコメント 東京大学東洋文化研究所 十二月十八日。

二〇〇九年二月

〔口頭発表〕「魯迅と富田事件」東京現代中国文学研究会 東京大学中文科研究室 二月七日。

三月

〔論文〕「魯迅と富田事変（初稿）——江西根拠地におけるA B 団肅清問題と毛沢東」『日吉紀要 中国研究』第二号。

四月

〔口頭発表・論文〕「魯迅対富田事変与肅A B 团的反応」『五四与中国現当代文学』国際学術研討会 北京大学 北京大学中文系（陳平原主任）・北京大学二十世紀中国文化中心主催。 四月三日～二五日。

六月

〔口頭発表〕「合評会『魯迅と西洋近代文芸思潮』（工藤貴正著）をめぐる」小川利康報告についてのコメント」東京中国現代文学研究会 東大本郷中文研究室 六月二七日。

十月

〔書評〕「陰画としての翻訳—書評 工藤貴正著『魯迅と西洋近代文芸思潮』（汲古書店、二〇〇八年九月）——『中国図書』十月号。

二〇一〇年三月

〔口頭発表〕「小川利康編『資料 周作人・松枝茂夫往来書簡』の資料的価値及び読後感」東京現代中国文学研究会 東大本郷中文研究室 十月三十一日。

二〇一〇年一月

〔翻訳・解説論文〕王凡西著「王実味と『王実味問題』とを語る」『日吉紀要 中国研究』第四号。

二〇一一年一月

〔その他〕「桜の季節の『藤野先生』」「三色旗」四月号。

三月

〔その他〕「竹内良雄さんの定年退職を送る」『日吉紀要 中国研究』第四号。

九月

〔著書〕『魯迅とトロツキー——中国における『文学と革命』』平凡社。

- 〔口頭発表・論文〕「鲁迅与胡愈之」鲁迅生誕130周年記念国際学会 浙江省紹興咸亨酒店 九月二五日。
*のち、『民族魂』香港窓口出版社、二〇一二年第四期、十二月に要点掲載。全文は寿永明・王曉初主編『反思与突破——在經典与現實中走向縱深的鲁迅研究』安徽文艺出版社、二〇一三年二月、に「鲁迅与胡愈之——鲁迅為何拒絕赴蘇聯療養」として収録。
- 十一月
〔口頭発表〕「鲁迅為何拒絕赴蘇聯療養」東大中文系・南京大學中國現代文學研究中心共催 Workshop「現代中國文學与東亞」東大本郷 十一月四日。
- 十二月
〔講演〕「自著を語る『鲁迅とトロツキー』中国における『文学と革命』」（平凡社、二〇一一年九月）
日吉中国現代文學研究会 慶應義塾大學日吉キャンパス 十二月十九日。
- 二〇一二年二月
〔講演〕「鲁迅とトロツキー——中国における『文学と革命』」変革のアソシエ哲学思想カフェ 中野ニユーグリーンビル 二月二一日。
- 三月
〔論文〕「鲁迅と胡愈之——鲁迅はなぜソ連に療養に行かなかったのか」『日吉紀要 中国研究』第五号。
- 十月
〔口頭発表〕「顧偉良教授の発表『地図を持たない旅人』蕭乾と中国作家の運命」について」科研費による国際学術シンポジウム『現代中国作家の挫折と信念——蕭乾文学とその時代』弘前學院大學文學部・顧研究室主催、弘前大學人文学部中国思想研究室共催、日本學術振興會・学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム後援、弘前學院大學 十月十二日。
- 十二月
〔講演〕「文学と政治——鲁迅・トロツキー・毛沢東」慶應義塾大學日吉キャンパス特別講座「中国を視る目を養う」第2回 十二月八日。
- 二〇一三年三月
〔その他〕「『中国図書』木山書評に答え、併せて若干の問題について」『日吉紀要 中国研究』第六号。
〔訳著〕莫言著『変』明石書店。
- 五月
〔論文〕「鲁迅『狂人日記』材源考——周氏兄弟とソログープ」伊藤徳也編『周作人と日中文化史』アジア遊学164。

六月〔講演〕「藤井省三さん・長堀祐造さんライブトーク」^⑧ふらっとすぽっと／『透明な人参―莫言珠玉集』

〔朝日出版社〕・『変』（明石書店）紀伊国屋書店新宿南店三階 六月二十六日。

七月〔口頭発表〕「徐子怡氏の発表「中国の村上春樹読者は如何に「村上チルドレン」を読むのか―「豆瓣網」における中国の村上読者に対する安妮寶貝の読書調査―」について」東大中文国際シンポジウム「村上春樹をめぐる中国との対話 東京大学本郷キャンパス 七月十三日

十一月〔その他〕「自宅でテキスト・クリティークができる？―大成老旧刊データベースを使つての感想」『東方』十一月号。

二〇一四年二月〔その他〕紀伊国屋「翻訳家・研究者がこっそり教える 日本に届けたい世界文学」フェアパンフレット。

三月〔口頭発表〕「『鲁迅とトロツキー』（平凡社、二〇一一年）著者コメント」京都大学人文科学研究所 石川禎浩研究室研究会 三月七日。

二〇一五年九月〔口頭発表〕「巴金と晩年鲁迅―呉克剛、奥野信太郎に触れて― 慶應義塾大学文学部創立125周年記念事業「巴金と日本、および日中学术交流に関するシンポジウム」慶應義塾大学三田キャンパス 九月十五日。

〔著書〕『世界史リブレット 人 陳独秀』山川出版社。

二〇一六年三月〔論文〕「鲁迅「狂人日記」材源考―周氏兄弟とソログープ― 修訂版及びその閩肅訳中国語版 秋吉收編『現代の日本における鲁迅研究』（九州大学大学院言語文化研究院）。

〔翻訳・解説論文〕陳道同著「何之瑜晩年の二つのこと」解説論文「陳道同追悼、そして何之瑜のこと」『日吉紀要 中国研究』第九号。

六月〔共訳著〕『陳独秀文集1 初期思想・言語文化卷』（小川利康・小野寺史郎・竹元規人との共訳）平凡社東洋文庫872。

- 七月 「論文」『陳独秀小伝』『陳独秀文集』 初期思想・言語文化論集』所収。
「講演」『生涯にわたる反対派』陳独秀（一八七九～一九四二）国際労働問題研究会 法政大学市ヶ谷キャンパス 七月二日。
「講演」『私と莫言・翻訳と取材経験から』『変』翻訳を中心に』莫言講演集出版記念講演会 東京大学山上会館 七月三十日。
- 八月 「口頭発表」『上海文芸の一瞥』テキスト問題について・ノート―魯迅・ゾルゲ・東亜同文書院にふれて』愛知大学孔子学院創立10周年記念シンポジウム「日中近代比較文学研究の空間と可能性（1900～2010）」八月二日。
- 十月 「その他」『近代中国の礎築いた陳独秀』東京新聞朝刊 十月一日付。（新聞取材コメント・小寺勝美記者署名記事）
- 十一月 「翻訳」尾崎秀実著「中国の友人への書簡」Asahigraph Overseas Edition *Pictures in Japan* May 1938 の英語版より翻訳。
「翻訳」陳翰笙著「中国における持続的抗戦の展望」（一九三八年十月）太平洋問題調査会（I. P. R.）刊 *Amensia* Vol. II, No.8, October 1938 の英語版より翻訳。両編はともに、二〇一六年十一月六日、「尾崎・ゾルゲ墓参会記念講演 資料集」日露歴史研究センター。修訂版は同センター事務局編『ゾルゲ事件関係外国語文献翻訳集』No.48 二〇一七年一月。
- 十二月 「論文」『魯迅とゾルゲとの距離―表象としてのスパイ及び「上海文芸の一瞥」講演の謎』関根謙編『表象の中の近代中国』平凡社。
「論文」『巴金と晩年魯迅に関する走り書き的覚書―胡愈之・呉克剛・『三田文学』に触れて』『藝文研究』第一一一号。
「口頭発表」『魯迅の文芸観と運動としての文学、そして宣伝』慶應義塾大学藝文学会シンポジウム「戦

争と文学」慶應義塾大学三田キャンパス 十二月十六日。

二〇一七年一月

〔編集・座談会企画・文責〕「先学を語る 丸山昇先生」『東方学』第一三三輯。

三月

〔編集・座談会企画・文責〕「関根謙先生 人と学問」『日吉紀要 中国研究』第十号。

四月

〔共訳著〕『陳独秀文集3 政治論集2』（江田憲治との共訳）平凡社東洋文庫881。

〔口頭発表〕「陳独秀の生涯―日本留学期を中心に―陳独秀の日本留学問題及び『陳独秀文集』全三巻の刊行について」中国人留學生史研究会 神奈川大学・横浜キャンパス 四月二二日。

五月

〔口頭発表〕「1937-1938年の陳独秀「復党」問題と「トロツキー派に答える手紙」」京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター共同研究班「毛沢東に関する人文学的研究」（班長・石川禎浩）

江田憲治発表「遊撃戦争とは何か?―1929年中央軍事部の論争をめぐって」に対するコメント 五月二六日。

六月

〔論文〕「魯迅の文芸観と運動としての文学、そして宣伝」二〇一六年十二月の藝文学会シンポジウム記録『藝文研究』第一一二号。

〔講演〕「陳独秀文集」全三巻翻訳で見えてきたこと及びその他 陳独秀早稲田留学問題にふれて」早稲田大学中文学会第四十二回春季大会 早稲田大学戸山キャンパス 六月十七日。

九月

〔口頭発表〕「陳独秀文集」の編訳に携わって」民国史論の会主催 シンポジウム 民国史の中の陳独秀 二〇一七年九月三十日、東京・六本木、国際文化会館。シンポジウム記録はのちに、関智英、矢久保典

良「『民国史の中の陳独秀』シンポジウムの記録」として、『中国研究月報』二〇一八年三月号に掲載。

十月

〔口頭発表〕「漱石と魯迅―油絵「魯迅遺容」の日本人画家」シンポジウム「漱石と魯迅、百年の対話」東京大学文学部中文研究室・魯迅文化基金・南京大学文学院・南京師範大学外国語学院共催 朝

日新聞社後援 東京大学本郷キャンパス 十月二二日。

〔口頭発表〕「陳独秀的『恢復党籍問題』与『答託洛斯基派的信』」第十二届東亜学者現代中文文学国際

- 十一月
學術研討会「文学革命的百年 伝統、暗流及特異点―現代東亜文化的光譜―」名古屋大学大学院人文学研究科主催 名古屋大学文系総合館 十月二十八日。
- 十一月
〔口頭発表〕「王凡西の永統革命論と陳独秀の民主思想―トロツキー研究所・アジア連帯講座共催シンポジウム―世界を揺るがした二〇〇年間―世界史から見たロシア革命―亀戸文化会館。のち、江田憲治・中村勝己・森田成也著『世界史から見た ロシア革命―世界を揺るがした二〇〇年間―(柘植書房新社、二〇一八年七月)に収録。
- 十二月
〔口頭発表〕「工藤貞正「毛沢東「文芸講話」の文芸理論と文芸政策論の構築と機能をめぐって―「革命文学」論争(1928)から胡風批判(1955)まで―についてのコメント」京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター共同研究班「毛沢東に関する人文学的研究」(班長・石川禎浩)十二月二二日。
- 二〇一八年二月
〔論文〕「陳独秀早稲田留学についての一考察」早稲田大学中国古籍文化研究所編『中国古籍文化研究 稲畑耕一郎教授退休記念論集』全二巻 東方書店。
- 三月
〔論文〕「陳独秀の中共「復党」・協力問題と「トロツキー派」に答える手紙」『日吉紀要 中国研究』第十一号。
- 十一月
〔項目執筆・胡愈之の項〕『中国近代人名辞典』改訂増補版 霞山会・国書刊行会。
- 十一月
〔その他〕「佐々木力さんと魯迅・中国トロツキー派のことなど」『アリーナ』二〇一八年第二二号。
- 十二月
〔口頭発表〕「中国における文学と革命―魯迅・陳独秀とトロツキー及び中国トロツキー派」社会主義理論学会 第七九回研究会 慶應義塾大学三田キャンパス 十二月十五日。
- 二〇一九年三月
〔論文〕「周作人と宮本百合子―『魯迅全集』注の誤りに触れて」『日吉紀要 中国研究』第十二号。
- 十二月の口頭発表の概要)『社会主義理論学会 会報』第七六号。

〔その他〕「思い出すことなど」『トロツキー研究』第七三号最終号。

六月 〔口頭発表〕合評会報告 「書評 山口守著『巴金とアナキズム』(中国文庫、二〇一九年三月)」東京現代中国文学研究会 合評会 早稲田大学 六月二二日。

〔講演〕「魯迅とトロツキー—文学と革命」慶應義塾大学三田オープンカレッジ 慶應義塾の現代中国研究 六月二十九日。

〔その他〕「吉留昭弘著『陳独秀と中国革命史の再検討』刊行に思う」『反戦情報』四一七〜四一八合併号 六月十五日付。

二〇二〇年一月 〔参考・海外で紹介された拙著『魯迅とトロツキー』についての書評〕A Review of Lu Xun and Trotsky: Literature and Revolution in China by Nagahori Yūzō by Gregor Benton, School of History, Archaeology and Religion, Cardiff University. Historical Materialism の website.

http://www.historicalmaterialism.org/book-review/lu-xun-and-leon-trotsky?fbclid=IwAR04WNNzs0pV4S2N_ptq21NLEZyQvoQic7OhBxbCLo2KMeDDYbZdlvWpE

三月 〔書評〕「抗日前線司令官が描く南京陥落の実相—「胡風派分子」阿壠の傑作、執念の全訳なる」(阿壠著関根謙訳『南京 抵抗と尊厳』五月書房新社 二〇一九年十月)『東方』二〇二〇年三月号。

〔論文〕「瞿秋白「多余的話」異聞—「豆腐」の謎を解く試論—」『日吉紀要 中国研究』第十三号。

十二月 〔講演〕「魯迅研究の回顧—わが三十三年の夢—」慶應義塾中国文学会第五回大会。十二月十二日、Zoomによる大会開催。*奥田杏花と義塾、東京歯科大学の合併問題にも触れた。